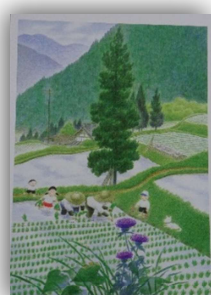
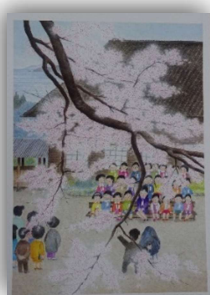


提携店訪問記⑰ 安藤勇寿「少年の日」美術館 様

令和5年4月26日、佐野市御神楽町にある「安藤勇寿『少年の日』美術館」様を訪問し、取材させていただきました。北関東道佐野田沼ICを降りて、県道16号線を北に進み、さらに県道201号線(作原田沼線)を北に進み、JA三好の信号機を5kmほど直進、美術館の大型駐車場を左に入り、みかぐら橋を渡ると美術館への入口があります。安藤勇寿先生と奥様にお話を伺いました。美術館は、先生が生まれ育った旧田沼町に建設され、私設美術館で開館21年目を迎えられ、新作原画展が開かれています。大時計のある建物は、左右対称の形をしており、先生がデザインされ、そのような形にされたとのことでした。美術館名に「少年の日」が入っているのは、少年のような心と目線で絵を描き続けたいからとのことでした。絵を描くことが好きになったのは、小学校1年生の時に絵画コ



ンクールで入賞し、校長先生が全校集会の場でほめてくださったことの感動が原点であり、いろいろな絵を描いていく中で、31歳の時から「少年の日」の絵を描かれるようになったそうです。色鉛筆で絵を描かれる際には、光を意識され、色鉛筆の力の入れ具合で色の強弱(ぼかし)と形(構図)で表現したい感情を描かれていくそうです。今までで一番大きな作品「泣きむし」は畳5枚分で、常設展示室にあります。新作特大画の「金魚すくい」も展示されています。これらの作品を筆頭に、37点の作品が展示されています。展示室に入り、一つ一つの作品を拝見すると、自分がかつて体験したことが思い出され、まるで絵と対話しているような感覚になります。描かれてる少年をはじめ人物は、生き生きとしており、自分もその中にいるように感じます。後ろ髪を引かれる気持ちで展示室を後にするとミュージアムショップがあり、今一度作品に触れ、自分の部屋に連れて帰ることができます。ゆったりと鑑賞できるように、時間に余裕をもって訪問されることをお勧めします。安藤先生がご在館の折には受付でお声掛けいただければ、休憩スペースでお話を伺えるそうです。心が癒され豊かになる時間を過ごされてはいかがでしょうか。



安藤勇寿「少年の日」美術館

住所 佐野市御神楽町 623-1
電話 0283-67-1080
開館時間 9:30~17:00(入館は閉館30分前まで)
定休日 月曜日(月曜祝日の場合は翌日休館)
臨時休館(2/26~2/28, 7/1~7/3)
年末年始(12/26~1/3)
駐車場 大型車, 普通車ともに有
ホームページ <http://www.shonnennohi.jp/>
特典 入館料の100円引き(1グループにつき)